

令和6年度 体力向上における各校の取組みと成果(小学校)

若狭町

教育委員会

No	学校名		項目	具体的な取組み	成果
1	三方	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	児童会主体の取組みや休み時間における体を動かす機会の確保	児童会主体の全校遊びやミニ運動会、休み時間中におにごっこやドッジボールなど学年を越えて遊ぶ様子がみられ、日常的に運動に親しむことができた。
2	気山	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	定期的に児童会執行部や体育委員会が中心となって、休み時間を活用した全校遊び(鬼ごっこやドッジボール、大なわとび、「気山サーキット」等)を企画・実施し、楽しく運動習慣の育成に努めた。	特に児童が企画した「気山サーキット」では、6種の運動(平均台、綱のぼり、馬跳び、マット前転、大縄跳び、フラフープ)を2分ずつのローテーションの12分間で実施し、様々な動きを取り入れた。「とっても楽しかった!」という声がたくさん聞かれた。
3	梅の里	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	冬季の業間活動(縄跳びの持久跳び)において、種目達成者の名前を提示した掲示物の作成。	業間だけでなく、休み時間にも持久跳びに挑戦している児童が増え、昨年に比べ持久跳びの記録が向上した。
4	みそみ	小学校	本校の体力向上の取組みについて	5月~10月中旬まで、週に2回、3学年毎に分けて朝マラソンを実施。11月~1月中旬までは、週に2回、3学年毎に分けて朝なわとびを実施。	マラソン大会では1・2年生は1km、3・4年生は1.5km、5・6年生は2kmを走り切った。また、なわとび大会では、全校の約7割が持久とびの目標記録を達成することができた。
5	鳥羽	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	年間を通しての朝スポの継続(変形ダッシュ、校庭マラソン、短・大縄跳び)天気や気温、行事などを照らし合わせながら週に2回実施した。	友だちと声をかけあって笑顔で運動に向かう様子が見られたり、委員会児童主体での運営がスムーズにできるようになったりと1年間を通して児童の意欲・主体性が成長した。
6	瓜生	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	ペア学年遊び・縦割り班遊び(週1回)ペア学年遊びは2学年をペアにして体育館で遊べるようにした。縦割り遊びは1~6年生の12人程度を1グループとして遊んだ。	リーダー学年の児童を中心に積極的に運動に向かう様子が見られた。1年間を通して児童の運動に対する意欲が向上しただけでなく、児童の仲間づくり・居場所づくりにもつながった。

7	熊川	小学校	その他	地区合同体育大会に向けて、実地方法の検討などを行う。熊川宿をコースとするマラソン大会の見守りボランティアの依頼をする。	今年度は、地区合同体育大会を実施することができた。地域と学校が一体となり行うことができた。マラソン大会も熊川宿全体で応援する雰囲気ができ、児童の意欲も高まった。
8	三宅	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	運動推進・運動時間の確保 体育の時間や休み時間に「はぴスポ」に取り組んだ。冬期には、縄跳び週間も設定した。期間中は体育館の使用は縄跳びのみとし、体育館を学年や縦割り班で割り当てることにより、運動時間を確保した。	低学年では、学校だけでなく、家庭で「はぴスポ」に取り組む児童が増え、進んで運動するきっかけとなっている。また、縄跳び週間を設定したことにより、縄跳びに向けての意欲が高まり、休み時間や昼休みに、各々の力に合わせ、意欲的に縄跳びに取り組む児童が増えた。
9	野木	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	業間活動の1つとして「はぴりゅうスポーツ広場」を活用する。	業間活動の時間に、「はぴりゅうスポーツ広場」に取り組む時間を設けた。2学期前半は全校児童の使用率が30%程度であったが、後半は80%を超えた。冬季休業中にも活用し、家庭でも運動に取り組む児童が増えた。